

30	2 2-2) 低圧間歇持続吸引を管理できる (知・技) .	3	2	1	0	3	2	1	0
31	経口摂取の開始・中止を依頼できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
32	2 3-2) 経口摂取の開始・中止を判断し指示できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
33	2 4. 腹壁・皮膚の縫合ができる (知・技) .	3	2	1	0	3	2	1	0
34	2 4-2) 下級医の腹壁・皮膚の縫合を指導できる (知・技) .	3	2	1	0	3	2	1	0
35	2 5. 安全に抜糸・ドレーン抜去ができる (知・技) .	3	2	1	0	3	2	1	0
36	2 5-2) 下級医の抜糸・ドレーン抜去を指導できる (知・技) .	3	2	1	0	3	2	1	0
37	2 6. 緊急のCT・超音波検査の必要性を判断できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
38	2 7. 緊急のCT・超音波検査の所見を説明できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
39	2 7-2) 緊急のCT・超音波検査を依頼し、所見を読影できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
40	2 8. 腹部症状から緊急手術の必要性を判断できる (知・技) .	3	2	1	0	3	2	1	0
41	2 9. 上級医への連絡が必要な状態を判断し、適切に連絡できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
42	3 0. 緊急のCT・超音波検査を依頼し、所見を読影できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
43	3 1. 消化器癌患者の術後の血液検査・X線検査の成績から術後経過を評価できる (知・技) .	3	2	1	0	3	2	1	0
44	3 2. 退院サマリーを適切に記載できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
45	3 3. 患者からの直接の質問に対して適切に対応できる (知・技) .	3	2	1	0	3	2	1	0
46	3 4. カンファレンスにおいて画像や病理組織を適切に提示できる (知・技) .	3	2	1	0	3	2	1	0
47	3 5. カンファレンスにおいて画像や病理組織に関する適切な質問ができる (知・技) .	3	2	1	0	3	2	1	0
48	3 6. インターネット・図書室を使って文献検索ができる (知・技) .	3	2	1	0	3	2	1	0
49	3 7. 文献検索の結果をまとめカンファレンスで発表できる (知・技) .	3	2	1	0	3	2	1	0
(食道外科)									
食道癌の基礎知識									
50	1. 食道の解剖・区分・機能について説明できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
51	2. 食道癌の肉眼分類について説明出来る (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
52	3. 食道癌の発育様式について説明できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
53	4. 食道癌の進行度分類を説明できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
54	5. 食道癌の無治療での自然経過を説明できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
検査と治療方針決定									
55	1. 食道透視・食道胃内視鏡検査の前処置を依頼できる (知・技) .	3	2	1	0	3	2	1	0
56	2. 食道透視検査の手順を説明できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
57	3. 胃透視検査の所見を説明できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
58	4. 食道内視鏡検査の所見を説明できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
59	5. 内視鏡的食道粘膜切除術の適応を説明できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
60	6. 食道の内視鏡治療の偶発症とその処置を説明できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
61	7. 食道癌のCT所見を説明できる (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
62	8. 食道癌深達度M1-3の診断基準を説明出来る (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0
63	9. 食道癌SMの診断基準を説明出来る (知) .	3	2	1	0	3	2	1	0

64	10. 食道sm癌の手術適応・内容について説明できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
65	11. 進行食道癌の診断基準を説明出来る(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
66	12. 進行食道癌の手術適応・内容について説明できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
67	13. 術前の検査所見に基づいて食道癌の進行度を評価できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
68	14. 食道癌術前化学療法法の適応とその概略を説明できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
69	15. 術前検査の所見に基づいて切除標本の予想展開図を作成できる(知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
術前後管理									
70	1. 食道癌患者の術前全身評価に必要な検査項目を説明できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
71	2. 食道癌手術の前処置を依頼できる(知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
72	3. 反回神経の走行とその合併症について説明できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
73	4. 術後合併症とその処置を説明できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
74	4-2) 術後合併症に対する応急処置ができる(知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
75	5. 緊急食道癌手術の前処置を立案できる(知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
手術									
76	1. 占居部位別リンパ節群分類を説明できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
77	2. 食道癌切除後の再建臓器・再建経路について説明できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
78	3. 第2助手として適切に介助ができる(知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
79	3-2) 第1助手として適切に介助ができる(知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
80	4. 指導医のもとで術者として開胸術、開腹噴門部切除、胃管作成術ができる(知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
81	5. 術中に切除標本を適切に開くことができる(知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
82	6. 切除標本で病変の範囲を正確に指摘し得る(知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
83	7. 切除断端の病理迅速診断を適切に提出できる(知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
84	8. 切除標本の固定を適切に行える(知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
85	9. 切除標本からリンパ節を摘出し転移の有無を判断してマッピングできる(知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
86	10. 切除標本のスケッチを正確にできる(知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
87	11. 胸腔鏡補助下食道切除術について説明できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
術後フォローアップ									
88	1. 食道癌手術の後遺症を説明できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
89	2. 食道癌再発例の治療法の概要を説明できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
90	3. フォローアップ中の患者の転移・再発を診断できる(知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
91	4. 食道癌術後のフォローアッププログラムを説明できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
その他									
92	1. 食道粘膜炎下腫瘍の診断・治療法について説明できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
【胃外科】									
胃癌の基礎知識									
93	1. 胃の解剖・区分・機能について説明できる(知).	3	2	1	0	3	2	1	0
94	2. 早期胃癌の肉眼分類について説明出来る(知).	3	2	1	0	3	2	1	0

95	3.	胃癌の遺伝子異常について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
96	4.	胃癌の発育機式について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
97	5.	胃癌の進行度分類を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
98	6.	占居部位別リンパ節群分類を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
99	7.	胃癌の無治療での自然経過を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
検査と治療方針決定										
100	1.	胃透視・胃内視鏡検査の前処置を依頼できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
101	2.	胃透視検査の手順を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
102	3.	胃透視検査の所見を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
103	4.	胃内視鏡検査の所見を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
104	5.	内視鏡的胃粘膜切除術の適応を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
105	6.	胃癌の内視鏡治療の偶発症とその処置を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
106	7.	早期胃癌M・SMの診断基準を説明出来る (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
107	8.	胃sm癌の手術適応について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
108	9.	胃癌MPの診断基準を説明出来る (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
109	10.	進行胃癌の手術適応について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
110	11.	胃癌のCT所見を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
111	12.	術前検査の所見に基づいて切除標本の予想展開図を作成できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
112	13.	術前の検査所見に基づいて胃癌の進行度を評価できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
術前後管理										
113	1.	胃癌患者の術前全身評価に必要な検査項目を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
114	2.	緊急胃癌手術の前処置を立案できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
115	3.	胃癌手術の術後合併症とその処置を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
116	3-2)	胃癌手術の術後合併症に対する応急処置ができる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
手術										
117	1.	胃癌術前化学療法法の適応とその概略を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
118	2.	早期胃癌の手術術式について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
119	3.	進行胃癌の手術術式を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
120	4.	腹腔鏡補助下胃切除術について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
121	5.	術中に第2助手として適切に介助ができる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
122	6.	指導医の指導のもとで胃切除術の第1助手ができる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
123	6-2)	術中に第1助手として胃癌手術の介助が適切にできる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
124	7.	指導医の指導のもとで術者として幽門側胃切除術ができる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
125	8.	術中に切除標本を適切に開くことができる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
126	9.	病変の範囲を正確に指摘し得る (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
127	10.	切除断端の病理迅速診断を適切に提出できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
128	11.	切除標本からリンパ節を病理迅速診断に適切に提出できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0

129	1 2. 切除標本からリンパ節を摘出し転移の有無を判断してマッピングできる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
130	1 3. 切除標本のスケッチを正確にできる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
131	1 4. 切除標本の固定を適切に行える (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
術後フォローアップ									
132	1. 胃癌手術の後遺症を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
133	2. 胃癌の転移・再発の形式を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
134	3. 胃癌術後のフォローアップ中の患者の転移・再発を診断できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
135	4. 胃癌再発例の治療法の概要を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
136	5. 胃癌術後のフォローアッププログラムを説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
その他									
137	1. ピロリ菌と胃癌との関連を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
138	2. ピロリ菌の除菌の方法を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
139	3. 胃十二指腸潰瘍の治療法について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
140	4. GERD (胃食道逆流症候群) について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
141	5. 胃悪性リンパ腫の治療体系について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
142	6. 胃粘膜下腫瘍の診断・治療法について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
【大腸・下部消化管外科】									
大腸癌の基礎知識									
143	1. 大腸の解剖・区分・機能について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
144	2. 大腸の血流について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
145	3. 大腸癌の所属リンパ節について説明できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
146	4. 大腸癌の発生過程を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
147	5. 大腸癌にみられる遺伝子異常を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
148	6. 家族性大腸癌 (大腸腺腫症・HNPCC) について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
149	7. 早期大腸癌の増殖形式 (PGとNPG) について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
150	8. 大腸癌の無治療での自然経過を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
151	9. 大腸癌の進行度分類を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
152	1 0. 大腸早期癌の手術適応を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
検査と治療方針決定									
153	1. 注腸造影・大腸内視鏡検査の前処置を依頼できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
154	2. 注腸造影検査の所見を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
155	2-2) 注腸造影検査の所見を読影できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
156	3. 大腸内視鏡検査の所見を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
157	3-2) 大腸内視鏡検査の所見を読影できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
158	4. 大腸sm癌の内視鏡所見の特徴を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
159	5. 大腸癌の内視鏡治療の偶発症とその処置を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
160	6. 大腸sm癌の手術適応を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0

161	7. 腹腔鏡補助下大腸切除術について説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
162	8. 直腸癌術前の放射線化学療法との適応とその概略を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
163	9. 直腸指診を行い、その所見を説明できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
164	10. 大腸癌術前のCT所見を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
165	10-2) 大腸癌術前のCT所見を読影できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
166	11. 大腸癌術前のMRI所見を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
167	11-2) 大腸癌術前のMRI所見を読影できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
168	12. 術前の検査所見に基づいて大腸癌の進行度を評価できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
169	13. 術前検査の所見に基づいて切除標本の予想展開図を作成できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
術前術後管理									
170	1. 予定大腸手術の前処置を依頼できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
171	1-2) 緊急大腸手術の前処置を立案できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
172	2. 大腸癌手術の術後合併症とその処置を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
173	3. 大腸癌手術の術後合併症に対する応急処置ができる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
手術									
174	1. 手術患者の碎石位をとれる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
175	2. 指導医のもとで人工肛門造設術の術者ができる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
176	3. 第2助手として肝彎曲部・脾彎曲部・小骨盤腔の視野を維持できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
177	4. 結腸切除術、低位前方切除術、人工肛門閉鎖術の第1助手ができる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
178	4-2) 指導医の指導のもとで結腸切除術、低位前方切除術、人工肛門閉鎖術の術者ができる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
179	5. 超低位前方切除術、直腸切断術、大腸全摘術の第1助手ができる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
180	6. 低位前方切除術、S状結腸切除術の際に自動吻合器を操作できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
181	6-2) 超低位前方切除術、functional end to end anastomosisの際に自動吻合器を操作できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
182	7. 直腸癌における術中洗浄・リークテストを実施できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
183	8. 術中に切除標本を適切に開くことができる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
184	9. 比較的容易な部位で自動吻合器を操作できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
185	10. 断端の病理迅速診断のための材料を採取できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
186	11. 切除標本からリンパ節を摘出し病理検査に提出できる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
187	11-2) 切除標本からリンパ節を摘出し転移の有無を判断してマッピングできる (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
188	12. 切除標本のスケッチを正確に行える (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
189	13. 切除標本の固定を適切に行える (知・技).	3	2	1	0	3	2	1	0
190	14. 直腸癌の自律神経経温存術・肛門括約筋温存術を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
術後フォローアップ									
191	1. 大腸癌手術の後遺症を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
192	2. 大腸癌の転移・再発の形式を説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0
193	3. 大腸癌術後のフォローアッププログラムを説明できる (知).	3	2	1	0	3	2	1	0

その他			
194	1. 大腸憩室症について説明し、診断できる (知・技) .	3 2 1 0	3 2 1 0
195	2. 潰瘍性大腸炎・クローン病の病態と手術術式について説明できる (知・技) .	3 2 1 0	3 2 1 0
196	3. 大腸脱腫症の診断と治療について説明できる (知・技) .	3 2 1 0	3 2 1 0
197	4. 大腸癌術後のフォローアップ中の患者の転移・再発を診断できる (知・技) .	3 2 1 0	3 2 1 0
〔肝胆膵外科〕			
肝腫瘍：胆道癌、膵臓癌の基礎知識			
198	1. 肝区域 (Couinaud) を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
199	2. 胆道・膵の外科的正常解剖を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
200	3. 転移性肝腫瘍の画像診断上の特徴を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
201	4. 転移性肝腫瘍の切除方法について説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
202	5. 肝細胞癌の画像診断上の特徴を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
203	6. 肝細胞癌の非外科的治療方法を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
204	7. 肝細胞癌の外科的治療方法を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
205	8. 肝内胆管癌の画像診断上の特徴を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
206	9. 肝内胆管癌の切除方法について説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
207	10. 膵癌と他の膵疾患の鑑別診断を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
208	11. IPMTとMCTの本態および画像上の特徴を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
209	12. IPMTとMCTの切除方法について説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
210	13. 胆管癌の切除方法について説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
211	14. 胆のう癌の画像診断上の特徴を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
212	15. 胆のう癌の切除方法について説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
検査と治療方針決定			
213	1. 腹部超音波検査所見を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
214	2. 腹部CT所見を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
215	2-2) 腹部CT所見を読影できる (知・技) .	3 2 1 0	3 2 1 0
216	3. 部血管造影検査所見を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
217	3-2) 腹部血管造影検査所見を読影できる (知・技) .	3 2 1 0	3 2 1 0
218	4. 腹部MRI検査所見を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
219	5. ERCP所見を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
220	6. PTCD所見を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
221	6-2) 指導医のもとで閉塞性黄疸症例のPTCDを施行できる (知・技) .	3 2 1 0	3 2 1 0
222	7. 術前検査所見に基づく治療方針を説明できる (知・技) .	3 2 1 0	3 2 1 0
223	8. 膵癌におけるリンパ節郭清の意義を説明できる (知) .	3 2 1 0	3 2 1 0
224	9. 膵癌の非切除因子を説明できる (知・技) .	3 2 1 0	3 2 1 0
225	10. 膵癌の予後を説明できる (知・技) .	3 2 1 0	3 2 1 0
術前術後管理			

226	1. 肝・胆・膵癌患者の術前検査を説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
227	1-2) 肝・胆・膵癌患者の術前検査を立案できる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
228	2. 門脈血栓術の適応と方法を説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
229	3. PTCDの管理とドレナージ胆汁に応じた補液ができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
230	4. 肝硬変患者術後の腹水や体重の変化に応じて利尿剤, FFPを投与できる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
231	5. 術後出血, 胆汁漏, 右胸水を診断できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
232	6. 膵液漏を診断できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
233	7. 肝不全兆候を早期診断できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
手術									
234	1. 肝・胆道・膵領域の外科的正常解剖と変異を術中に把握できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
235	2. 個々の症例に応じた適切な皮切, 開腹, 開胸法を選択できる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
236	3. 術中超音波で肝内脈管と腫瘍の関係を立体的に把握できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
237	4. カラードップラエコーで動脈・門脈・肝静脈を区別できる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
238	5. 術野を絶え間なく吸引し, 術者の視野を確保できる (技)	3	2	1	0	3	2	1	0
239	6. 長時間手術でも集中力を途切れさせることなく, チームワークを保つことができる (技)	3	2	1	0	3	2	1	0
240	7. 指導医のもとで胆嚢摘出術 (開腹) の術者を務めることができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
241	8. 肝部分切除術の第1助手や, 指導医のもとでの術者ができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
242	9. 区域以上の系統的肝切除術の第1助手ができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
243	10. 胆汁リークテストの方法を理解し施行できる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
244	11. 膵頭十二指腸切除術の第1助手ができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
245	12. 膵体尾部切除術の第1助手や, 郭清を伴わない切除の指導医のもとでの術者ができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
246	13. 膵頭部縮小手術の第1助手ができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
247	14. Appleby手術の第1助手ができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
248	15. 胆管癌に対する拡大肝葉切除の第1助手ができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
249	16. 肝外胆管切除の第1助手ができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
250	17. 肝切除兼膵頭十二指腸切除の第1助手ができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
251	18. 胆道癌・膵癌に対するリンパ節郭清の第1助手ができる (知・技)	3	2	1	0	3	2	1	0
総計									
	251項目=753点満点					/753			/753
	修得率					%			%
	意欲、態度、協調性5点満点								
	総点100点満点中								

<講評>

呼吸器外科

癌研病院 呼吸器外科 レジデント研修目標

〔研修対象者〕 レジデント・シニアレジデント・チーフレジデント

〔GIO〕 (General Instructional Objective) 目的 (研修目標)

外科医師として必要な基礎知識や技術を習得するとともに、呼吸器腫瘍外科医としての専門的知識ならびに技術を研修する。

〔SBO〕 (Specific Behavioral Objectives)	達成項目数
(1) 病棟業務の遂行	4項目
(2) 主な呼吸器疾患の理解	3項目
(3) 呼吸器疾患に対する診断の理解と習得	12項目
(4) 肺癌に対する治療方法の理解	10項目
(5) 呼吸器系腫瘍に対する標準的な手術手技の理解と実践	10項目
(6) 術後管理の理解と実践	9項目
(7) 学術活動 (症例検討会・学会発表・論文作成)	5項目
(8) 勤務態度・その他	5項目
合計	58項目

〔方法〕

指導医のもと副主治医として呼吸器患者を受け持ち、担当患者の診断から治療に関して、指導医とともに責任を持つ。

(1) 病棟業務の遂行

- 1 患者に対して問診・理学的所見をとり、カルテの記載ができる (知、技)
- 2 病棟での指示ができる (内容と書き方) (技)
- 3 患者の検査計画を立案し、その検査結果に基づく術式を決定できる (知、技)
(術前 summary 作成の評価)
- 4 術前・術後管理の説明ができる (説明時の立ち会い・手順と内容の理解) (知)

(2) 主な呼吸器疾患の理解

- 5 肺癌・転移性肺腫瘍について説明ができる (知)
- 6 肺の良性腫瘍・縦隔腫瘍について説明ができる (知)
- 7 炎症性疾患・その他の疾患について説明ができる (知)

(3) 呼吸器疾患に対する診断

- 8 正常胸部 X 線写真を読影できる (知、技)
- 9 胸部 X 線写真の異常陰影を読影できる (知、技)
- 10 胸部 CT 検査についての基礎知識が説明できる (知)
- 11 正常胸部 CT を読影できる (知、技)
- 12 胸部 CT の異常所見を読影できる (知、技)
- 13 胸部 CT 検査中・後の副作用出現に対する対応手順の理解と実践ができる (知、技)
- 14 気管支鏡検査の前処置を理解し、実践できる (知、技)
- 15 気管支鏡検査を行い、各気管支を同定できる (知)
- 16 気管支鏡検査を行い、可視範囲内を観察し、撮影できる (技)
- 17 気管支鏡検査の診断技術を実践できる (指導医の補助下) (知、技)

- 1 8 気管支鏡検査における偶発症の理解と対応が実践できる (知、技)
- 1 9 胸部 X 線写真・胸部 CT・気管支鏡検査所見などを統合的に診断できる (知、技)

(4) 肺癌に対する治療方法の理解

- 2 0 臨床病期における手術適応を説明できる (知)
- 2 1 標準術式を説明できる (知)
- 2 2 縮小・拡大手術の適応を説明できる (知)
- 2 3 手術記録の記載 (癌研式) ができる (技)
- 2 4 化学療法 of 適応を説明できる (知)
- 2 5 化学療法 of 標準的なレジメンを説明できる (知)
- 2 6 気管支腔内照射を説明できる (知)
- 2 7 肺内・肺門照射・T字照射・SRTx を説明できる (知)
- 2 8 全脳照射・SRTx を説明できる (知)
- 2 9 レーザー治療を説明できる (知)

SRTx : stereotactic radiotherapy (定位放射線治療)

(5) 呼吸器系腫瘍に関する標準的な手術手技の理解と実践

- 3 0 第2助手を実行できる (技)
- 3 1 第1助手を実行できる (技)
- 3 2 開胸・閉胸操作を実施できる (知、技)
- 3 3 肺葉切除を実施できる (知、技)
- 3 4 肺全摘を実施できる (知、技)
- 3 5 標準的リンパ節郭清を実施できる (知、技)
- 3 6 胸腔鏡下手術を実施できる (知、技)
- 3 7 区域切除を実施できる (知、技)

3 8 周囲臓器の合併切除を実施できる (知、技)

3 9 気管支形成を実施できる (知、技)

(6) 術後管理の理解と実践

4 0 肺癌クリニカルパスに準じた術後管理を理解し実践できる (知、技)

4 1 一般的な術後管理を理解し実践できる (知、技)

4 2 呼吸・循環を管理できる (知、技)

4 3 胸腔ドレーンを管理できる (知、技)

4 4 糖尿病・脳血管障害・高齢者・肺気腫・間質性肺炎などの術後管理を説明できる (知)

4 5 合併症患者・高齢患者および呼吸器特有の術後管理を実行できる (技)

4 6 術後合併症を早期発見できる (知、技)

4 7 痰喀出困難例の処置 (ミニトラック挿入・BFによる吸痰) ができる (技)

4 8 膿胸・その他の合併症に対応できる (知、技)

(7) 学術活動 (症例検討会・学会発表・論文作成)

4 9 症例検討会における担当症例の提示と質疑応答できる (知、技、態)

5 0 症例報告 (地方会) ができる (知、技、態)

5 1 多数症例の検討報告 (地方会・総会) ができる (知、技、態)

5 2 症例報告の論文を作成できる (知、技)

5 3 多数症例の検討報告の論文を作成できる (知、技)

(8) 勤務態度・その他

5 4 患者に対する態度・言葉使い (技、態)

5 5 co-worker と協調できる (技、態)

5 6 体力・気力・決断力・反省心を表出できる (技、態)

57 若手レジデントの教育・指導ができる（知、技、態）

58 病棟管理（入院患者全体の把握とベッドコントロール）ができる（知、技、態）

呼吸器外科 評価表 (レジデント/シニアレジデント) 名前:		3=よくできた、 2=ある程度できたようになった 1=少しできた 0=まったくできなかった		自己評価 指導医名 ()	自己評価<指導医評価=○ 自己評価>指導医評価=△ 自己評価と指導医評価が ともに3点=◎ 差 (自己評価-指導医評価)
		自己評価	指導医評価		
レジデント 目標58項目					
(1) 病種業務の遂行					
1	1 患者に対して問診・理学的所見をとり、カルテの記載ができる (知、技)	3	2	1	0
2	2 病棟での指示ができる (内容と書き方) (技)	3	2	1	0
3	3 患者の検査計画を立案し、その検査結果に基づき術式を決定できる (知、技) (術前 summary 作成の評価)	3	2	1	0
4	4 術前・術後管理の説明ができる (説明時の立ち会い・手順と内容の理解) (知)	3	2	1	0
(2) 主な呼吸器疾患の理解					
5	5 肺癌・転移性肺腫瘍について説明ができる (知)	3	2	1	0
6	6 肺の良性腫瘍・縦隔腫瘍について説明ができる (知)	3	2	1	0
7	7 炎症性疾患・その他の疾患について説明ができる (知)	3	2	1	0
(3) 呼吸器疾患に対する診断					
8	8 正常胸部X線写真を読影できる (知、技)	3	2	1	0
9	9 胸部X線写真の異常陰影を読影できる (知、技)	3	2	1	0
10	10 胸部CT検査についての基礎知識が説明できる (知)	3	2	1	0
11	11 正常胸部CTを読影できる (知、技)	3	2	1	0
12	12 胸部CTの異常所見を読影できる (知、技)	3	2	1	0
13	13 胸部CT検査中・後の副作用出現に対する対応手順の理解と実践ができる (知、技)	3	2	1	0
14	14 気管支鏡検査の前処置を理解し、実践できる (知、技)	3	2	1	0
15	15 気管支鏡検査を行い、各気管支を同定できる (知)	3	2	1	0
16	16 気管支鏡検査を行い、可視範囲内を観察し、撮影できる (技)	3	2	1	0
17	17 気管支鏡検査の診断技術を実践できる (指導医の補助下) (知、技)	3	2	1	0
18	18 気管支鏡検査における偶発症の理解と対応が実践できる (知、技)	3	2	1	0
19	19 胸部X線写真・胸部CT・気管支鏡検査所見などを統合的に診断できる (知、技)	3	2	1	0
(4) 肺癌に対する治療方法の理解					
20	20 臨床病期における手術適応を説明できる (知)	3	2	1	0
21	21 標準術式を説明できる (知)	3	2	1	0
22	22 縮小・拡大手術の適応を説明できる (知)	3	2	1	0

23	2.3	手術記録の記載（感研式）ができる（技）	3	2	1	0	3	2	1	0
24	2.4	化学療法への適応を説明できる（知）	3	2	1	0	3	2	1	0
25	2.5	化学療法の標準的なレジメンを説明できる（知）	3	2	1	0	3	2	1	0
26	2.6	気管支腔内照射を説明できる（知）	3	2	1	0	3	2	1	0
27	2.7	肺内・肺門照射・T字照射・SRTxを説明できる（知）	3	2	1	0	3	2	1	0
28	2.8	全脳照射・SRTxを説明できる（知）	3	2	1	0	3	2	1	0
29	2.9	レーザー治療を説明できる（知）	3	2	1	0	3	2	1	0
30	3.0	SRTx：stereotactic radiotherapy（定位放射線治療）	3	2	1	0	3	2	1	0
(5) 呼吸器系腫瘍に関する標準的な手術手技の理解と実践										
31	3.0	第2助手を施行できる（技）	3	2	1	0	3	2	1	0
32	3.1	第1助手を施行できる（技）	3	2	1	0	3	2	1	0
33	3.2	開胸・閉胸操作を実施できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0
34	3.3	肺葉切除を実施できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0
35	3.4	肺全摘を実施できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0
36	3.5	標準的リンパ節郭清を実施できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0
37	3.6	胸腔鏡下手術を実施できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0
38	3.7	区域切除を実施できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0
39	3.8	周囲臓器の合併切除を実施できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0
40	3.9	気管支形成を実施できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0
(6) 術後管理の理解と実践										
41	4.0	肺癒クリニカルパスに準じた術後管理を理解し実践できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0
42	4.1	一般的な術後管理を理解し実践できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0
43	4.2	呼吸・循環を管理できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0
44	4.3	胸腔ドレーンを管理できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0
45	4.4	糖尿病・脳血管障害・高齢者・肺気腫・間質性肺炎などの術後管理を説明できる（知）	3	2	1	0	3	2	1	0
46	4.5	合併症患者・高齢患者および呼吸器特有の術後管理を説明できる（技）	3	2	1	0	3	2	1	0
47	4.6	術後合併症を早期発見できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0
48	4.7	痰喀出困難例の処置（モニター挿入・BFによる吸痰）ができる（技）	3	2	1	0	3	2	1	0
49	4.8	臍胸・その他の合併症に対応できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0
(7) 学術活動（症例検討会・学会発表・論文作成）										
50	4.9	症例検討会における担当症例の提示と質疑応答できる（知、技、態）	3	2	1	0	3	2	1	0
51	5.0	症例報告（地方会）ができる（知、技、態）	3	2	1	0	3	2	1	0
52	5.1	多数症例の検討報告（地方会・総会）ができる（知、技、態）	3	2	1	0	3	2	1	0
53	5.2	症例報告の論文を作成できる（知、技）	3	2	1	0	3	2	1	0

54	53	多数症例の検討報告の論文を作成できる (知、技)	3	2	1	0	3	2	1	0	
(8) 勤務態度、その他											
55	54	患者に対する態度・言葉使い (技、態)	3	2	1	0	3	2	1	0	
56	55	co-workerと協調できる (技、態)	3	2	1	0	3	2	1	0	
57	56	体力・気力・決断力・反省心を表出できる (技、態)	3	2	1	0	3	2	1	0	
58	58	病棟管理 (入院患者全体の把握とベッドコントロール) ができる (知、技、態)	3	2	1	0	3	2	1	0	
総計											
		58項目=174点満点					/174				
		修得率					%				
		意欲、態度、協調性5点満点					%				
		総合点100点満点中									

<講 評>

乳腺外科

乳腺外科カリキュラム

レジデント GIO (General Instructional Objective) :

乳腺疾患の検査、診断を理解し、治療方針がたてられる。

レジデント SBO (Specific Behavioral Objectives) :

(1) 外来・入院診療技術

1. 検診患者の所見がとれて、必要な検査がオーダーできる。(知、技)
2. 腫瘍自覚患者の病歴が作成できカルテに記載できる。(癌研式に赤青を用いる)(知、技)
3. 腫瘍自覚患者の記載すべき所見を列挙して、カルテに記載できる。(知、技、態)
4. 腫瘍自覚患者の必要な検査がオーダーできる。(知、技)
5. 乳頭分泌患者の多孔性乳頭分泌と単孔性乳頭分泌の病態の違いを説明できる。(知、技)
6. 乳頭分泌患者の注意すべき乳頭分泌液の性状と量のポイントを説明できる。(知、技)
7. 乳頭分泌患者の記載すべきポイントをあげられ、カルテに記載できる。(知、技)
8. 乳頭分泌患者のオーダーすべき検査を列挙できる。(知、技)
9. 微細石灰化患者の明らかな良性石灰化との区別ができる。(知、技)
10. 微細石灰化患者のオーダーすべき検査を列挙できる。(知、技)
11. 男性乳腺患者の間診上確認しなければならない項目を列挙でき、実践できる。
12. 豊胸術後患者のトラブルがおりうる検査が指摘でき、注意を払うことができる。(知)
13. 豊胸術後患者の一般検査と異なったオーダーをすることができる。(知)
14. 乳輪下膿瘍患者に合併しやすい視診上の特徴をあげられる。(知)
15. 乳腺炎患者の正しく診断することができる。(知、技)
16. 初診患者で検査と治療の急ぐ患者とそうでない患者の判断ができる。(知、技)
17. 乳癌患者の術前サマリーを作成できる。(知、技)
18. 抗癌剤点滴ルートの確保ができる。(知、技)

(2) 病理学的知識

19. 非浸潤癌の予後について説明できる。(知)
20. Paget 病と Pagetoid 癌との区別を説明できる。(知)
21. Paget 病の予後を説明できる。(知)
22. 乳頭腺管癌の特徴的な触診所見、MMG 所見、US 所見を説明できる。(知、技)
23. 充実腺管癌の特徴的な触診所見、MMG 所見、US 所見を説明できる。(知、技)
24. 硬癌の特徴的な触診所見、MMG 所見、US 所見を説明できる。(知、技)
25. 線維腺腫の特徴的な触診所見、MMG 所見、US 所見を説明できる。(知、技)
26. 葉状腫瘍の特徴的な触診所見、MMG 所見、US 所見を説明できる。(知、技)
27. 葉状腫瘍を 3 型に分類できる。(知)

(3) 検査技術

28. 乳癌患者に FNA が実施できる。(知、技)
29. FNA の良質なサンプル採取の技術を知っていて、実践できる。(知、技)
30. 乳癌患者 US ガイド下 FNA が実施できる。(知、技)

(4) 手術技術 (主に局所麻酔で行うもの)

31. 皮膚に近い乳腺腫瘤摘出が実践できる。(知、技)

(5) 手術技術 (主に全身麻酔で行うもの)

32. 術中出血量を少なくするための麻酔科サイドの工夫を説明できる。(知)
33. 乳癌の手術がやりやすい様に体位をとることができる。(知、技)
34. 手術に必要な体表のメルクマールにマーキングができる。(知、技)
35. メスで適切な皮膚切開ができる。(知、技)
36. 閉創ができる。特に吸収糸による連続埋没縫合ができる。(知、技)

(6) 標本整理についての知識

37. ホルモン受容体発現状況を知る意義と測定方法を説明でき、実際にサンプルを採取することができる。(知、技)
38. 癌研独自のリンパ節の標本整理ができる。(知、技)
39. 温存手術検体の標本整理ができる。特に surgical margin が病理医に同定しやすいようするための標本整理上の工夫を説明でき、実践できる。(知、

技)

40. 乳切手術検体の標本整理ができる。(知、技)

(7) 医療過誤を防ぐ

41. 左右を間違えて手術しないための工夫を説明できる。(知、技)

42. 患者や検体のとり間違いをしないための工夫を説明できる。(知、技)

(8) 患者、家族との関係

43. 患者、家族に対して病態状況、治療方針の IC を指導医のもとに実施できる。(知、技、態)

(9) 学術

44. 文献検索ができる。(知、技)

45. 特殊な症例についてのプレゼンテーションができる。(知、技)

46. 乳腺に関連したテーマについてプレゼンテーションができる。(知、技)

47. 学会報告ができる。(知、技)

48. 邦文論文作成できる。(知、技)